

議事録（平成27年度第3回糸魚川市総合教育会議）

糸魚川市総務部総務課

日	平成27年10月14日（水）	時間	13：58～15：18	場所	糸魚川市民会館会議室
件名	議事 (1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について (2) その他				
出席者	【出席者】 16人 市長 米田 徹 教育委員会 佐藤英尊（教育委員長） 藤浪美香（教育委員長職務代理者） 永野雅美（教育委員） 楠田昌樹（教育委員） 竹田正光（教育長） （事務局） 総務部 金子裕彦（総務部長） 岩崎良之（総務課長） 井川賢一（総務課長補佐） 仲谷充史（総務課行政係長） 教育委員会 竹之内豊（教育次長・こども課長） 山本 修（こども教育課長） 佐々木繁雄（生涯学習課長） 磯野 茂（文化振興課長） 磯野 豊（こども課長補佐） 両川和宏（こども課管理係長） 【欠席者】 0人 <div style="text-align: right;">（敬称略）</div>				
	傍聴者定員	20人	傍聴者数	1人	

会議要旨

1 開会（13:58）

2 市長あいさつ

これまでの総合教育会議での協議、調整の経過を踏まえ、「糸魚川市教育大綱」を概ねとりまとめた。限られた時間ではあるが、教育委員の皆様方から積極的なご意見を賜りたい。

3 教育委員長あいさつ

先般、世界大学ランキングのアジアのトップが、シンガポール大学になったというニュースが流れた。

このことは、直接、糸魚川市と関わるわけではないが、日本の教育そのもののレベルが、糸魚川市の教育にも影響を与えていることを十分はかり知ることができる。この総合教育会議は、考え方を述べ合っているだけでなく、早急に実りが生まれる取組につなげていける会議にしたい。

4 議 事 ※進行 米田市長

(1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について

資料No.1 「糸魚川市教育大綱（素案）」について、事務局が説明。

○委員長

「わがいといがわ」の図での表記の苦勞はよくわかるが、田中統治先生がおっしゃっていた、上から読んでも下から読んでも「わがいといがわ」をどう表現するか。言葉でもよいのではないか。

○事務局

どちらから読んでも「わがいといがわ」ということがわかるようにしたい。「わ」から両方に矢印が行くように修正して、回文形式で、視覚に訴える部分については残していきたい。

○委員長

取組指針にある「徳育」とは、どのようなことを指しているのか。何かの資料で「徳育」について述べられているか。説明がつくようにしておく必要があるのではないか。

○事務局

「徳育」についての解説を入れるよう修正したい。

○委 員

基本方針の文章が一文になっているので、見やすいように修正できないか。また、0歳から18歳までの重点推進項目の中で、「修学前教育及び学校教育の充実」となっているが、就学前というだけでは、家庭教育が薄いように感じるので、家庭教育について記述していただきたい。

○事務局

家庭教育は大事であると思う。表現の仕方について、皆さんのご意見を伺った上で修正したい。

○市 長

家庭教育のほかにも、地域教育の記述が必要なのではないか。学校教育も含めた3つのバランスが、これまで論議してきた中で大切だと思われるので、しっかりと位置づけしたほうがよい。

○委員長

就学前というのは、0歳からも含めるということの規定しておけば、説明はつくような気がする。学力の定義付けは、大変重要である。ひと頃、学力の定義を拡大解釈した時期があったが、このことによって学力が、非常にわかりづらい状況になった。ここでいう知的適応能力は、勉強しなければつかない。経験を積んだからつくとかいう、そういう意味の学力とは違う。つまり、勉強の姿勢がなくては身につかないという意味で、この規定は、すごく重要だと思う。

○教育長

昨年度見直しした「糸魚川市子ども一貫教育方針」では、「心・健康・学力」という並びになっている。この教育大綱の表記も合わせてもらいたい。

○事務局

表記は、合わせるように修正する。

学力の定義については、このまま残すこととしたい。また、家庭教育に関するご指摘については、二つの意見があったが、両方含めて検討する中で、事務局で調整させていただきたい。

○委 員

基本指針や重点推進項目の内容については問題ないと思うが、句読点や中黒の点、括弧書きなどについて、表記の使い分けをしているのか。

○事務局

「子ども一貫教育方針」の表記のとおりとさせていただいたものである。

○委員長

重点推進項目の中の「いじめの根絶」は、かなり言い尽くされてきた。「いじめの根絶」を目指すということについて、糸魚川市として積極的に意味を持たせるとすると、もう少し文言が変わってもよいのではないか。「いじめの根絶」という言葉は、非常にわかりやすいが、いじめがなくなるという見通しが楽観できないとすれば、違う表現がよいのではないか。

○教育長

新潟県では、「いじめを許さない、見逃さない」という言葉を使っている。そういう言葉でうまく括れば、根絶につながっていく気がする。根絶という言葉は、非常に強い言葉である。

○委員長

いじめの人間関係的側面から構造を解き明かしていかないと、いじめをなくすといっても、なかなか難しい。人が人と関わっていく中では、さまざまなことがある。それらの事象によるいろいろな営みによって、人は、成長するのだと思う。

いじめのような事態がない社会を保障していけるかということ、はなはだ難しい問題だと思う。だとすると、いじめを許さない環境、あるいはいじめを許さない社会をみんなで創り上げていくという、そういう積極性が必要なのではないか。いじめをなくすという方向性、構築するという方向性を謳って、実践に結び付けていくということが大事なのではないか。

○市長

そのような感情は、子どもが成長する段階で持ちうるものだと思う。根絶と言ってしまうと、あまりにも表面だけ取り繕って終わってしまう気がする。そうでなくて、「いじめは許さない」と言ったほうが、明確に感じてもらえて、どうあるべきかということを考えていけるのではないか。

○委員長

「いじめを許さない学校づくり」や「いじめを許さない仲間づくり」と言ったときには、自分たちの積極的な意思が表されると思う。

○委員

「いじめを許さない、見逃さない」ということである。

○教育長

新潟県では、「いじめをしない、させない、許さない」としており、それが、「いじめを見逃さない」というところにつながっていく。

○委員長

何かを構築していくという中で、いじめをなくしていくという部分をつくらなければならない。

○市長

いじめをなくしていくという過程が大事なので、表現を変えて、皆さんから取り組んでいってもらえるようにしたい。そうすると、子どもたちにもわかってもらえるだろうと思う。根絶という表記では、全然方法がわからない。

○委員長職務代理

そのような言葉に変えたほうが、ストレートに伝わると思う。

○市長

いじめの根絶という表現は、変えることとしたい。事務局、よろしいか。

○事務局

例えば、「いじめを許さない、見逃さない学校づくり」、もしくは「いじめを許さない、見逃さない環境、社会の構築」という言葉をいただいたので、それらを前提にしながら調整したい。

○市長

少し戻るが、「わがいといがわ」は、この注釈だと、田中教授による「わがいといがわ」を引用させていただいたというだけで、何が「わが」なのかわからない。「我」なのか、「輪」なのか、「和」なのか。どういうことを田中教授が言っておられるのか。どこかに明確なものはあるか。

○委員長職務代理

糸魚川について、自信を持って言えるようなキャッチフレーズ的な感じである。

○教育長

糸魚川の人づくり、糸魚川に対する愛着そのものを指している。糸魚川を自慢する、自慢できる人を育てようということである。

○委員長

「わがいといがわ」は、私の糸魚川ということである。ふるさと糸魚川を愛しているという気持ちを表していると思う。ふるさとを愛する気持ちを表現するのに、実にいい言葉だと思う。

○市長

今、言われたようなことを、説明に追加してほしい。

○事務局

回文になっているので、あらゆる面から見て、糸魚川を好きになったり、誇りを持ったりする人になってほしいという願いを入れることとしたい。

○委員

取組指針の全体のバランスがよくないように感じる。表記を再度検討してはどうか。

○委員長

4ページの①は、生きがいという非常に大きな括りがある。それをあえて分けてあるので、そのような解釈でよいかどうか。生きがいは、かなり広く、重い言葉だと思う。

○教育長

取組指針の一番上の生きがいというものに対して、下の部分がすべて関連しているというとならえ方もできる。その部分が、すべて生きがいであるというとならえ方で、考えられないだろうか。

○委員長

取組指針は、いずれも4点で合わせてあるが、矢印の使い方が、双方でかなりアンバランスになっており、独立しそうな文言があるような気がする。無理に括るのでなく、例えば、「自ら芸術・文化活動に取り組むひとをつくります」といったあたりは、独立してあってもよいのではないか。

○委員

スポーツを生きがいにしている人もいる。生きがいというのは、すごく大きいと思う。

○委員長職務代理

芸術や文化も、幅広い事業をやっていて、重要視されている事業だと思うので、感性を豊かにする部分と、コミュニティを分けるというのはいかがか。

○委員長

どの文章にも、「ひとをつくります」という文言が入っている。要するに、ひとづくりという観点である。

○委員長職務代理

「ひとづくり」は、聞き慣れた言葉であるが、一般の方にとっては、強制されている感じに受け取られないか。例えば、仲間づくりをサポートするといった表現のほうがよいのではないか。

○教育長

最も大事な言葉は何なのか。やはり生きがいでないか。とすると、結局すべて、生きがいのところに入ってしまいう気がする。地域コミュニティにしても、人とのつながりがないと無理である。

○委員長

人と人との交わり、人と人とが協力し、関わりを持つ中で、自分を高め、地域を高めていくという状況を想定していると思う。スポーツはスポーツで、独立していると思うし、地域コミュニティの形成は、人づくりと関わりを持つということで、生きがいとは少し違ってくる。この取組指針は、いろいろな思いが、あちこちに散りばめられている。

○事務局

4 ページの取組指針は、生涯学習をイメージしている。そこに、ふるさと学習やジオ学習、スポーツ、前回の会議で出た地域コミュニティを付け足したので、わかりにくくなってしまった。

○委員

言いたいことはよくわかる。番号の表記を変えればいいのかもかもしれない。

○委員長

生涯学習であるならば、生涯学習といったほうがわかりやすいかもしれない。

○市長

一番上に「健やかに生涯学び続けるひとづくり」とある。それを取組指針の中で分ければ、よいのではないか。この取組指針は、それぞれ4つをイメージして作ったものなのか。

○事務局

特にそれは意識していなくて、前回の会議で出たものを4番目として追加しただけである。事務局で検討、整理した上で、もう一度、皆さんから協議していただきたい。

○市長

教育大綱については、継続協議としたいが、スケジュール的にどうか。

○事務局

4、5 ページの取組指針については、ご意見を踏まえ、事務局で整理させていただきたい。また、今後、議会の所管である総務文教常任委員会からも意見を伺いたいと考えている。

(2) その他

資料「平成27年度 全国学力・学習状況調査 糸魚川市の結果概要」について、事務局が説明。

○委員長

今の子どもたちがあまり勉強に精を出さないという環境について、正直、非常に心配である。その中でも、糸魚川がこのように落ち込んでいるということを、どうとらえたらよいのか。勉強しなくなっているということは、十分伺えると思う。

では、勉強しなくなった時間を何に使っているのか。想像に難くないのは、携帯、スマホ、あるいはゲームといった部分なのではないか。そんなことに全精力を使っているから、自分の基礎学力、基礎能力を高めるなどという機会が、非常に狭められているという状況なのではないか。

学校の先生方が、そのあたりをどのように認識しているか、非常に心配なところである。

○市 長

今年の学力調査は、未だかつてない結果となった。非常に残念である。

学力の向上というのは、非常に重要である。なかなか難しい部分もあるが、市として、教育委員会と一体となって、新年度に向けて、何か対応しなければならないと思う。

○事務局

特に、小学生の結果が落ちてきている。非常に危惧するとともに、憂慮しているところである。

○市 長

小学校で基本的な部分ができているれば、中学校で頑張れば何とかなる。学ぶ姿勢は、小学校で確立されるので、今回の小学校の結果は、本当にショックである。何とかしなければならない。

○委員長

小学校も中学校も、基礎学力というところに、もう一度視点を戻す必要があるのではないかと。学力の視点を、現場の学校を中心として、もう一度思い改めてもらわなければならない。

○市 長

夫婦共働きで、子どもたちに接する時間が、だんだんと少なくなってきている。市として、学校教育と市民生活との境目あたりで、学力向上に関われる部分はないか考えている。

○委員長

学校長は、自らの手腕を発揮して、理想とする描く夢を、預かっている学校で実現させようという姿勢が必要である。そういうところに一般の先生方が引っ張られるのは、当然のことである。

○市 長

校長先生が、自分の学校をどうしていきたいか、子どもたちにどういう教育をしていきたいかというのを、しっかりと持つべきである。小学校だけでなく、中学校、高等学校も、一体となってそういう認識を持ってもらわないと、地域の学校がなくなるのではないかなと危惧している。

○教育長

先般、小学生による暴力行為が過去最悪との報道があった。この原因を分析していくと、人間関係を築けなかったり、あるいは、感情をコントロールできなかったりなどと言われている。糸魚川市では、「一貫教育方針」の成果かと思うが、暴力を振るう子どもの数は少ない。

ただ、それが、学力につながってきているかということ、そうなのではない。学力の向上は、自分からいろいろなことに取り組む子どもたちにとすることで、英検や漢検に取り組んでいる。そこに、どうやって導いていくかだが、成果を上げている学校と、そうでない学校の差が非常に大きくなってきている。もう少し積極的になってもらえるよう、指導していきたい。

○市 長

学力テストの結果、データを活用しながら、学習に活かしてってもらいたい。危機感を持ち、しっかりと受け止めてもらいたい。教育長、これは、校長先生にしっかりと理解してもらって、子どもたちの学習指導に十分にあたってもらいたい。この状況を何とか挽回したい。

5 その他

教育大綱については、今日いただいた意見を踏まえ、議会などとも調整した上で、もう一度、協議の場を設けさせていただきたい。日程については別途調整させていただく。

6 閉 会 (閉会 15:18)